

平成 25 年 1 月 15 日 00101 号

編集者:佐藤 寿春

北見武道通信

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-61-4804 Fax:0157-23-0581

satou.toshiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【NPO ネットワーク地域情報】東北ブロックスポーツ少年団柔道交流大会

宮城県柔道スポーツ少年団協議会 常務理事 鈴木 洸

平成 24 年 11 月 24～25 日に仙台市の宮城県武道館において、第 32 回東北ブロックスポーツ少年団柔道交流大会が開催されました。本大会は、東北 6 県による持ち回りの大会で、各県の予選を勝ち抜いた小学生男女・中学生男女の 4 クラスの団体戦で行われます。宮城県は平成 23 年の当番県でしたが、東日本大震災により開催が出来なくなり、比較的被害の少ない秋田県に代替開催をお願いし、体育館使用が可能となりましたこの時期に 1 年遅れの開催となりました。宮城県では、震災で指導者が犠牲になったり、団員が避難のため移住して活動が出来なくなった団が 2 団ありました。全国から義援金や柔道衣の寄付を多数頂き感謝の念に堪えませんが、沿岸部には復旧されず将来の見通しが立たない地域がまだまだあります。これからも、岩手・宮城・福島の被災地には末長いご支援ご協力をお願い申し上げます。

年頭の御挨拶



特定非営利活動法人 北見市武道振興協会 理事 内田 圭治

謹んで新年のお祝いを申し上げます。皆様におかれましては良き新年をお迎えのことと存じます。

さて今年は巳年ですが、仏法に「竹蛇の訓え」という言葉があるらしいです。蛇はクネクネしてなかなか真直ぐにはならないけれど、同じ大きさの竹筒に入れば真直ぐにならざるをえない。同じ様に人間の心もコロコロと動き易いものですが、その心も真直ぐな身体により安定して決して外にはこぼれ出ない。つまり常日頃から姿勢を正しくしていれば心が動じる事はなくなるという訓えです。剣道にも似たような訓えで「襟首袴腰」という

言葉があります。今年は秋に武道八団体の会員皆様の念願であった武道館が完成します。武道館に入る時ぐらいいは姿勢を正そうと年頭に決めたいです。武道八団体それぞれの「道」があると思いますが、日本の伝統文化である武道の「心」を武道館で皆さんと一緒に力を合せて伝えて行きたいと思っています。会員皆様の素晴らしい一年になりますよう祈念し新春のご挨拶と致します。

連載 宮本武蔵の「五輪書」 一 地之巻冒頭より

自分の兵法の道を、二天一流と号して、数年鍛練したことを、初めて書物にしようと思う。時に寛永二十(1643)年十月上旬の頃。九州肥後の岩戸山に上がり、天を拝し、観音に礼をして、仏前に向かう。播磨生まれの武士・新免武蔵守藤原の玄信。年は六十である。自分は若年のむかしより兵法の道を心掛け、十三歳で初めての勝負をした。相手は新当流の有馬喜兵衛という兵法者である。十六歳になって、但馬の国の秋山という、強力な兵法者に打ち勝った。二十一歳で京都に上ってからは、有名な兵法者と数度の勝負をしたが、勝利を得ないということはない。その後、諸国を巡り、さまざまな兵法者と会い、六十余余度の勝負をしたが、一度も勝利を失うことがなかった。十三から二十八、九歳の頃のことである。三十歳を越えて、自分の足跡を思うと、兵法を極めたから勝った訳ではない。生まれつき兵法の才能に恵まれ、刀の使い方が理にかなっていたのであるうか。また、他流の兵法に不足があったのかもしれない。その後、なおも深い道理を得ようと、朝夕に鍛練してみたら、自然と兵法の道を究めることができた。自分が五十歳の頃のことである。それからは、尋ねるべき道も入る道もなく、日々を送っている。兵法の理によって、さまざまな道に対応できるので、万事において自分に師匠はいない。今、この書物を作るにしても、仏法・儒道の言葉は使わず、軍記・軍法の話を持ち出さない。自分の二天一流の見解と、真の意味を表現しようと、天の道と観世音を鏡として、十月十日の夜、寅の一てん(午前四時三十分)に、筆を執って書き始めることである。つづく